

はじめます！ニ小 にここにこ ひまわりプロジェクト！

多摩市立多摩第二小学校
令和2年5月7日

4月の入学式・始業式以来、毎日学校に来ることができず、家で我慢して過ごしているニ小の子供たち。教職員も子供たちと会えず、とてもさびしく悲しい思いです。これからもしばらくは決められた日にしか会うことはできません。そこで、みんなで心をひとつにしてこの困難を乗り越えるために「ニ小 にここにこ ひまわり プロジェクト」をスタートします。東日本大震災の後咲いた「ど根性ひまわり」や阪神大震災の後咲いた「はるかのひまわり」を育て、家庭での話題にしてコミュニケーションを深めるとともに、子供たちの心や地域に希望の花を咲かせたいと考えています。それはコロナウイルス感染症に関連するすべての差別や偏見、いじめをなくすことにもつながる大きなことです。

◆ど根性ひまわり10世 ◆はるかのひまわりを育てよう！

2011年3月11日 東日本大震災のがれきのなかで咲いた「ど根性ひまわり」と1995年1月17日阪神・淡路大震災のがれきの中に咲いた「はるかのひまわり」(詳細は裏面)。



★4つのねがい！

- ① 命を大切にする。
- ② 困難に負けない。
- ③ 差別や偏見・いじめをなくす。
- ④ 震災をわすれない。



【実施方法】

- ① 育苗ポット（約600個）に培養土を入れ、5月8日（金）に種をまく（教職員でやります）。
- ② 約1週間で発芽予定。その後2週間で15cm程度に成長。
- ③ 5月25日（月）以降の登校日に児童に配布。
- ④ 残りの苗は学校で育てて玄関前に置き、しばらくは保護者が取りに来られるようにする。
- ⑤ 持ち帰った苗は各家庭や地域で庭やプランター、鉢等で育ててもらおうようお願いする。教職員も学校や家で育てる。花が咲いたら写真を学校の代表メールに送ってもらい、印刷して校内の掲示板に貼り出す。学校がひまわりの写真でいっぱいになるといいですね。

◆土や育苗ポット等の費用は多摩市のくらしと文化部、平和・人権課、人権擁護委員会のご協力で実現しました。



裏へつづく

ど根性ひまわりとは？

東日本大震災から二週間くらい経ったころ、がれきの中に「がんばろう!石巻」という大きな看板が立ちました。津波に負けたくない、地域の方を励ましたいとの思いで流されてきた木材で作られ掲げられた看板。やがてそれは復興のシンボルとなりました。その夏に看板の周りに育ち、開花した一本のひまわり。津波によりどこからか流れ着き、津波にも塩害にも負けず咲くそのたくましい姿。勇気をもたらした人たちはそのひまわりを「ど根性ひまわり」と呼ぶことにしました。その夏の終わりに採れた150個の種は2世3世と生命をつなぎながら、北海道から沖縄、さらには海を越えて大勢の方に育てられています。多摩第二小学校で育てている種は、多摩市に寄付された6世の種を育て、つなげられている10世の種です。

はるかのひまわりとは？

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災。被災地の兵庫県神戸市で、当時小学6年生だった「はるか」さんが亡くなりました。その年の夏、彼女の家のあった付近に大きなひまわりの花が咲きました。その種を「はるかのひまわり」として全国で生育し咲かせる過程で、災害や命の大切さを再考する機会とし、自らの元気を取り戻す、また身近な家族や友人を思いやり、故郷の復興へと拓がることを願って活動が続けられています。多摩第二小学校ではPTCAの活動の一つとして、保護者から「はるかのひまわり」を紹介していただき、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、休校となっている子供たちを元気づけるとともに地域を活気づけ、明るくする活動にもつなげたいと考え、ど根性ひまわりと共に育てる取り組みを始めました。

日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」より

ウイルスがもたらす
第3の“感染症”は
嫌悪・偏見・差別です

不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。そして、ウイルス感染にかかわる人や対象を差別するなど、日常生活から遠ざけたり、人と人との信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。

6

なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか

見えない敵（ウイルス）への不安

特定の対象を見える敵と見なして嫌悪の対象とする

嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることでつかの間の安心感が得られる

××人だ、危ない

△△地区は危ない

××人だ、危ない

△△地区は危ない

嫌悪しているあの人が、コロナかも。

でも私もいつおられるかわからない...はあ...

あんなこと言っちゃったけど...

敵はウイルス

敵がすり替わってしまう

本当の敵を見なくなる

7

3つの“感染症”は
どうつながっているの？

負のスパイラルで“感染症”が広がる

この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで。

①未知なウイルスでわからないことが多いため不安が生まれる

②人間の生き延びようとする本能によりウイルス感染にかかわる人を遠ざける

③差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診をためらい、結果として病気の拡散を招く

第1の“感染症”「病気」

第2の“感染症”「不安」

第3の“感染症”「差別」

9

コロナウイルスに関連する差別や偏見、いじめは絶対にゆるされません！

◆このプロジェクトで子供たちや保護者・地域に人権についての理解を深めてもらうことが大きな目標です。◆